

誰〈た〉が袖坂〈そでさか〉（垂水区井川谷町前開）

明石と須磨の間は山と海とがせまり、細い街道〈かいどう〉がひとすじとおっているだけです。もしも、大雨が降ったり暴風雨があると、たちまち、交通がとだえます。このため、明石から伊川をさかのぼり、前開〈ぜんかい〉・布施畑〈ふせばた〉から摂津〈せつつ〉の妙法寺〈みょうほうじ〉川上流に出る「白川越〈ごえ〉」の間道〈かんどう〉がつくられました。三身山太山寺〈さんしんざんたいさんじ〉は、この間道にそって建っている最も有名な古刹〈こさつ〉（古い寺）で、国宝や重要文化財がたくさんあります。

ところで、この太山寺仁王門から二百メートルばかり西の方に、「苦集滅道〈くがみち〉」とよばれる坂があります。土地のいい伝えに、「この坂で倒れると命が短くなる」といい、たいへん忌〈い〉みきらいます。そして、これをのがれるためには、

「着物の片袖〈かたそで〉を裂〈さ〉いてそこに捨〈す〉て、身代りに立てるとよい。」と伝えています。

近年まで、誰のものともわからぬ片袖が、この坂道にはいくつも捨ててあるのを見た、ということです。こうしたことからでしょうか、誰いうとなく、この坂道を「誰〈た〉が袖坂〈そでさか〉」とよぶようになりました。

